

はじめに

本フォント及びドキュメントファイルはWindows 及び Linux 上での動作を目的に作成されており、他の環境でのご利用は保障できません。またご利用になった場合、不具合で不利益が発生したとしても、いかなる保障もいたしませんのでご注意ください。修正可能な不具合につきましては、連絡いただければ善処する所存です。個人環境で、十分なテストが行われているとは言えませんので不具合が発生する可能性があります。期待した表示が行われない場合はご了承ください。

このファイルは、同梱の悉曇フォントを利用しております。フォント導入前に読まれますと、一部の文字が化けたり空白で表示される可能性がありますのでご注意ください。

朴筆風悉曇フォントについて

TrueTypeFont 「Ap 梵字悉曇式」は、unicode のデーヴァナーガリー領域(U+0900-097F)に悉曇文字を配置し、デーヴァナーガリー入力と同じ方法で悉曇によるサンスクリット入力を可能にしたフォントです。旧フォント「Ap 梵字悉曇」は縦書きを重視したため、限定的な他のグリフ領域を占有しておりました。本フォントは unicode 版のため、基本グリフはデーヴァナーガリー領域に、合字等は全て私用領域(外字扱い)に配置されています。デーヴァナーガリー文字は欧文フォント扱いになりますのでご注意ください。使用しているグリフは旧フォントと同形ですが、コード位置が異なるため互換性はありません。従って旧フォントで作った文章を、本フォントで表示しても同じ文字にはなりません。このため、新・旧フォント間でフォント名とファイル名が異なります。同時に混在して使用することが可能です。

本フォントは、旧フォントにグリフを追加しております。旧フォントで使えたグリフはすべて含まれております。使用可能なグリフは、調査した真言等の資料により大幅に増量しました。詳しくは別ファイルの「文字一覧」をご覧ください。

本フォントはデーヴァナーガリー入力を行わずとも、旧来のコピー＆ペースト方式で利用可能なように、本文と摩多を組み合わせたグリフが私用領域に配置されています。このため、全体文 33 字(+※)の摩多 10 字と別摩多 2 字の変化形グリフがコピー＆ペーストできます。また、合字やその摩多変化グリフも同様です。こちらも「文字一覧」ファイルをご参照ください。

動作環境

デーヴァナーガリーフォントの内部仕様のため Windows 7 以降の対応になります。

WindowsXP 以前でご利用される場合は別途配布の Ver. 2.061 を使用してください。

Linux では Debian・Ubuntu・Arch・Mandriva・Redhat・Gentoo・SUSE 系等で動作確認いたしました。正常に動作しないディストリビューションが有りましたらご連絡ください。

フォントの組み込み方法

フォント管理ソフトで組み込むなり、Windows の Fonts フォルダにドロップするなりご自由にどうぞ。同名のフォントや、ファイル名が同じフォントが既に登録されている場合、組み込むことができませんのでご注意ください。

Linux だとフォントビューで確認してインストールボタンを押すとか、`~/local/share/fonts/` にコピーするなり、`/usr/share/fonts/truetype/` に root で入れるなど、ご利用のシステムに合った方法で導入してください。

悉曇文字の入力方法

通常は、デーヴァナーガリー入力可能な環境では無いと思われますので、環境設定が必要です。まず、IME がサンスクリット語・ヒンディー語に対応していないと入力できません。

MS-IME なら言語と地域の設定で対応可能です。GoogleIME はヒンディー版があります。ATOK はさすがに知りません。インド製のデーヴァナーガリー入力ソフトウェアも何種類ありますが、ご利用される場合はご注意ください(怪しげなダウンロード専用ソフトの強要や、セキュリティソフトが警告を発するサイトに接続されることが結構ありました)。

ちなみにインドのキーボードは、日本語キーボードの仮名表示みたいに、キートップにデーヴァナーガリーが刻印されているようです。で、キートップにデーヴァナーガリーが刻印されていない日本や英語圏のキーボードをご利用の皆様は、ユーザー補助のスクリーンキーボードを使用されますと入力が楽になります。インド系キーボードの表示を覚えていて、タッチタイプな方には必要ありません。ちなみにスクリーンキーボードは、表示フォントを変更可能ですので、悉曇キーボードと化すことが可能です。変更しないとデーヴァナーガリー表示なので覚えるまで大変です。

Linuxの場合は簡単です。iBusかFcitxでIndianキーボードを追加登録してください。インドでは使用される言語が多く対応キーボードも大量にあるように探すのが面倒です。基本的にデーヴァナーガリーキー配列が3週類有るようなのでご注意ください。スクリーンキーボードを表示すればキー配列は一目瞭然ですね。全デーヴァナーガリーフォントを無効化すれば、onboardで梵字悉曇キーボードが出来上がります。

最後に

本フォント Ap 梵字悉曇式は、Windows10のWLS2を用いたubuntu 22.04.3上のFontForgeで生成しました。フリーフォントとして扱っていただけますので、作成したサンسكريット文章や画像データの配布・公開等は自由です。合字には複数のパーツの合体データ（張り付けているだけで一つには繋がっていない）もありますので、グリフのベクトルデータを利用した画像編集ソフトで利用される場合はご注意ください。また日本語版のIllustratorやPhotoshopの旧版はデーヴァナーガリーに対応していないものがあります。最近の版でもインド系文字の入力に設定を変更する必要があります。設定をしていない場合、合字が分解したり、摩多装飾が外れた状態になります。ただし私用領域に展開されたグリフを直接用いれば問題なく使用できます。「InpBonji」を用いればデーヴァナーガリーでなく Ap 梵字悉曇式の外字(縦書き対応)として出力することができます。

参考文献及びHP

朱鷺書房刊・児玉義隆氏著「梵字必携」
「種子集」
「まんどうーかのサンسكريット・ページ」
「貝葉に見る般若心経の秘密」
「ぶらっとさんぽ」平成の『般若心経』-摩訶般若波羅密多心経
「e 国宝」梵本心経および尊勝陀羅尼
「大正新脩大藏經テキストデータベース」
「CBETA 中華電子佛典協會」
「Seven Mile Beach File」メモ 361
「ta meta ta phonetika」
その他 Devanagari Font 公開HP、仏教・密教系HP

以上

配布元ブログ <http://azahuse2025.seesaa.net/>
T.Nakagawa (Azahuse)